

昭和53年 '78 芸術大賞「海響譜」

(第32回岩手芸術祭)

役員は留任変更無し、第32回岩手芸術祭は審査員を2回目になる写真家の林忠彦氏に依頼した。この年も写真部門として2回目の芸術祭大賞を受賞した。下河原武男氏の「海響譜」であった。

昭和54年 '79

(第33回岩手芸術祭)

役員は留任となった。事務局長の高橋秀男に代わり、佐々木秀雄が事務局長に任命された。第33回岩手芸術祭は従来使用していた盛岡地区合同庁舎別館が使用できなくなり、県公会堂が使用され、前期、後期に会期が分けられた。審査員は3回目となる写真家の林忠彦氏に依頼した。出品者137人、223点だった。

昭和55年 (第34回岩手芸術祭)

'80 写真連盟展・始まる

役員は留任変更無し、芸術祭主導型に推移してきた岩手県写真連盟も自主的な「岩手県写真連盟展」の第一回の開催に漕ぎ着けた。そのもう一つの理由は毎年行われる総会への参加が少なく、殆どが盛岡の会員で占められていたことがある。県下の会員を集めるため、連盟展会期の最



第33回審査員 林 忠彦

終日の日曜日に総会をやり、その時に額装した作品を持ち帰るということを考えた。総会終了後には研修会なども行い徐々に参加者が増えて、岩手県写真連盟の総会として過去一年の総括と次年度への活動など活発な意見が交換されるようになった。第34回岩手芸術祭は審査員を中村正也氏(二科会会員、日本広告写真家協会会長)に依頼した。この時から地方への巡回展が行われている。



第34回審査員 中村正也

昭和56年 (第35回岩手芸術祭)

'81

役員は再選、留任となった。第2回の岩手県写真連盟展も開催された。第35回岩手芸術祭には2回目となる中村正也氏に審査員を依頼した。地方への巡回展も行われている。

昭和57年 (第36回岩手芸術祭)

'82

春の三菱カラー撮影会・始まる

役員は継承(任期2年)この年から、春の三菱カラーの撮影会の後援となり会員の参加による研修会的な情報交換の場として継続されてい